

# 1 自己評価及び外部評価結果

(別紙4)

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2491300402		
法人名	社会福祉法人 こもはら福祉会		
事業所名	グループホームつつじホームつつじが丘サテライト		
所在地	三重県名張市つつじが丘北5番町162番地		
自己評価作成日	令和6年1月15日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigovsvoCd=2491300402-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigovsvoCd=2491300402-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和6年2月7日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅地(つつじが丘)のほぼ中央に位置し、向かいには市民センターとまちの保健室があり、地域との連携や情報収集などが円滑に行えている。又、すぐに近くにスーパーもあり、気候の良い時には散歩を兼ねて四季の花を感じながら買い物等が楽しめる。立地環境は広い空間にあり、周囲が開かれているので全体的に明るい感じがしている。施設の方針として外部(家族様や地域の方々等)に開かれた施設でありたいと考えているので、ボランティア関係者や面会者などの出入りも多い。又、法人が各種福祉事業を運営していることもあり、連携を活かしたサービスも提供できる。職員も同じ住宅での居住者が多く、緊急時の円滑な対応や各種情報の入手もし易い。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

この事業所では、利用者とともに笑いあって暮らしていけるように、職員が一体となって語り合い、学び、それを記録し、日常業務に取り組んでいると認められた。またコロナ禍でいろいろと制約された中でも、家族と利用者がつながっていくよう配慮がされてきている。こうした取り組みをとおして、職員にとっては楽しい職場になっているところである。法人は名張市内でかなりの実績を積んでおり、その経験が事業所運営に反映されていると思われる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目: 11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目: 30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)- です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ともに笑い、ともに生きる」の理念目標は常時、施設内に掲示。外部の方や家族にも分かる様にしており、管理者/職員は常に「理念」を念頭に日常業務を行い、定着化にも取り組んでいる。	笑いが生活の糧であり、日々笑って過ごせばいいと考えている。理念は会議室や玄関の壁に貼り、職員はじめ誰もが見られるようにしてあり、ケア会議ではいつも理念を振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染5類移行された事に伴い、徐々に地域との交流や活動が出来る様になってきたが、殆どの方がマスク等を着用されている状況でもあり、直接的な交流ではなく散歩等による地域との「つながり」と「存在」に努めている。	レクリエーションボランティアが来ると隣接のデイサービスと一緒に楽しんでいく。自治会行事のどんど焼きや町の保健室の認知症カフェに参加したり、地域住民から栗とか葉ボタンをもらう等の交流をしている。	コロナ禍はまだ気を抜けない面はあるが、外部との交流も工夫次第で取り組めるようになってきた。今後は自治会や家族等も加わり、ともに交流し合えるような企画を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染5類移行（5月）された事に伴い、各関係機関等との連携強化に取り組んでいる。特に近隣の市民センター内の「まちの保健室」との関係は重要であり、地域の窓口として各種情報交換が行なえる様、お付き合いの維持継続に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本会議は重要な会議であり、市役所や委員の方々とも相談、調整のうえ、5月から対面方式により開催出来た。サービスの実情や評価への取り組みについて話し合い、アドバイス等を頂いている。	対面方式になるまでは、事業所内の取り組み等のコピーを市に提出してきた。今では、事業所の出来事を報告したり、自治会から行事案内等があり、それらに関する意見交換が活発である。行政は、市と地域包括が交互に出席している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各種報告や会議の開催等の調整では常に連絡を取り合っている。又、他の用事で市役所へ行った時も必ず「顔だし」している。毎月発行の施設活動状況及び関係報告等は必ず市の各担当者へ訪問/提出し、各種情報交換を行う様に努めている。	相談事や認定更新等の書類提出があれば市役所に直接出かけている。施設整備や運営上の問題あれば、法人が市と話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会は1回/3か月及びケア会議等（毎月）にて各種事例検討等を議題に揚げ、身体拘束防止の重要性、認識の定着化に努めている。又、日常の介護支援中での「やむを得ない危険回避の為の制止」が発生した時にも必ず管理者へ状況報告をさせる等身体拘束防止の徹底強化に取り組んでいる。	身体拘束防止、ヒヤリハット、虐待防止等について一括して法人の委員会が定期開催され、事業所管理者やケアマネジャーが参加している。協議結果はその都度職員会議で報告している。法人では、特にヒヤリハットやスピーチロックに注意を払っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてもケア会議にて各種事例検討等を議題に揚げ、虐待防止の啓蒙（適宜、家族へも説明）に努めている。とくに、日常の介護支援中での「スピーチロック」については絶対に発生させない様指導し、厳重な注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	定期的な「権利擁護推進員養成研修」を受けた法人幹部が各施設の管理者に研修を実施。各ロケーションの管理者が各職員等へ周知し、日常業務に活かせる様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず、入退居時には契約内容・重要事項等を詳細に説明し、納得して頂く様に心掛けている。又、事後でも何かあれば必ず連絡して頂くことを伝え、お願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ感染5類移行は徐々に家族との連絡、対面交流が増えてきている。受診時や備品購入等の機会を通じて各種情報交換やご意見・要望を頂く様にしている。又、「つつじが丘だより」にて各利用者の生活状況等を案内、報告している。	受診は家族対応になっており、通院時に来訪する家族とよく話合っている。利用者の日常や体調、ケアプラン等について意見交換するが家族の要望、意見等はあまり聞かれない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議等にて介護支援や運営方法、方針等についてよく話し合う様にしており、運営方法等の共有化（欠席者には議事録）に努めている。必要により個別面談等により対応している。	職員会議、朝晩の申し送り等で職員と意見交換している。職員は気付いたことを必ずノートに記載し、全員で閲覧、共有している。法人は夏冬年2回、職員面談をしている。職員の意見は利用者への対応に関することが多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事務室内には就業規則・給与規定等を備えており、職員がいつでも閲覧できる様にしている。又、人事考課等の面談も年1回実施し（必要により随時面談も実施）、勤務先等の転勤希望も自由に提出可能である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体としたキャリアアップの各種取り組みや制度がある。介護全般に対するスキル、意識向上にむけた各種研修を開催する等社員育成を推進している。又、介護福祉士取得等については法人からの貸付制度もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染5類移行は徐々に地域との各種交流も増えつつあるが、未だコロナ感染への不安（マスク装着率が高い）から低調である。同業者とのネットワークを活かしたサービス品質の向上は大事であるので交流機会等を活発化していく事としたい。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との信頼関係を築く為、特に入居当初には入念な会話により、本人の思いやご要望を出来る限り聞き出す事に集中し、共感、共有した情報を元に本人に合った介護支援作りを目指している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階でのご家族との信頼関係を築く為、入居時に出来る限り、ゆっくりと時間をかけて本人の性格や生活歴及びご家族の思い、要望を聞き出す事に努めている。その情報を共有化のうえ、信頼して頂ける介護支援、プラン作りに活用している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み時及び入居時には本人、家族の要望や事情等を出来る限りお聞きし、特に本人が「不安や心配」を感じさせない対応に心掛けている。状況により他サービス等の紹介、説明も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に理念「ともに笑い、ともに生きる」を忘れず、利用者の立場と目線での介護支援に取り組んでいる。施設生活では簡単な料理や後片付け等ご自身で出来る事（役割、存在感）は極力お手伝いをして頂く等「共に過ごす関係作り」に努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ感染5類移行は徐々に家族との良好な関係を維持する為、従来通り受診や備品購入時を捉えた本人の生活状況等の各種情報提供、交換等による積極的なコミュニケーションを元にご家族との絆を大切にする様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染5類移行は徐々に家族から頂いた情報や意見を参考に従来の様に本人の馴染みの人や地域等の話を介護支援に反映させる様に努めている。	家族と受診の際に自宅に行ったり、隣接のデイサービスに来る知人と交流している。クリスチャンの利用者に牧師が来訪している。地域の友人、知人の様子は家族が伝えてくれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の介護支援、生活の中で各利用者の言動や個性を把握し、ケア会議（議題）にて情報共有している。例えばテーブル席の配置や不穏同志の利用者の仲介的役割を担う等良好で快適な生活保持、支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族との良好な関係を継続していく為、退居理由（医療的ケア等）に関係なく退居後も各種相談に応じ、サポートさせて頂く事を機会を通じて説明している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	良好で快適な生活を保持する為、日々の介護支援、生活の中での各利用者への気付きや言動・個性等を各職員が把握。ケア会議（議題）にて情報共有のうえ、一人ひとりの思いや暮らし方に合わせられる介護支援に努めている。	日常会話の他、入浴介護中に会話が弾み、昔話や食事の好み等を聞いている。趣味ややりたいこと等はあまり発言がない。発語のない利用者もいるが、仕草や表情等からしたいことを掴んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の介護生活の中で、これまでの生活歴や各利用者の気持ち・趣味・特技等の個性を把握している。職員同士がその情報を共有のうえ、より良好な介護サービス提供の向上に活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の介護生活の中で各利用者の会話内容やご家族から聞いている情報（生活歴、好き嫌い、性格等）を元にその時々に応じた介護支援が出来る様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成にあたってはケア会議等で各利用者の健康、生活状況等を議題に揚げ、又各職員からの情報等（必要により聞き取り）を基に作成している。家族へのカンファレンスは受診の同行時等に実施している。なお、徐々に通常時の対面方式に戻していきたい。	職員会議でカンファレンスの時間をつくり、ケアマネジャーと職員が中心になり、モニタリングは毎月、ケアプランは1回で3人ずつ6か月毎に検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護支援のちょっとした出来事も連絡ノートに記録（緊急の場合は口頭）し、各利用者の生活状況や変化を職員同士で引継ぎ、その日の状況に応じた対応や改善策に反映している。又、ケアプラン作成時にも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の多機能化としては併設のデイサービスの各種設備の活用や音楽療法等各種イベントに出来る限り参加する等柔軟な支援や多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当施設の最大の地域資源は自然豊かに囲まれたエリアで、季節（四季）を感じて暮らせる事である。初詣、花見/紅葉ドライブ等を従来通り実施し、まちの保健室のイベント（カレンダー作り、認知症カフェ等）にも積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆ど、家族にて以前のかかりつけ医へ受診されている。なお、受診時には本人の生活状況や体調等を書面化（医師用）し、家族へも事前説明している。又必要により職員が同行し、問診時等でのサポートを行っている。	かかりつけ医には各自が家族で対応し精神科、整形外科、内科等に通院している。協力医の訪問時は1名だけ受診している。予防注射は各かかりつけ医でしている。歯科は月2回訪問診療がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師の定期的（8時間/月）な当施設への訪問あり。各利用者との会話を通じた所見後、職員からの介護支援での気づきや悩み等に対する助言、相談を聞いてくれており、信頼関係や各職員の介護医療スキルの向上にも繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	殆ど入退院時には家族と同行している。出来る限り医師/看護師との対応にも同席のうえ、施設での生活状況等医療に参考になる事を伝えと共に医師の意見等をしっかり聞き、入退院時（後）での適切な対応に活かせる様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた支援や方針については入居契約時及びカンファレンス等の機会を通じて対応の仕方・方針等を家族に説明し共有化する様に心掛けている。必要に応じては法人内の施設や関係機関等の案内を行っている。	看取りはしない旨を入居時や容態激変時家族に説明し理解を求め、次の対応先は法人内の施設紹介をしている。場合によっては法人外施設を紹介することもある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時については緊急対応マニュアルに沿った対応が出来る様（適宜、思い出し研修）にしている。又、初期対応や措置方法については巡回の看護師等から随時、助言、指導を受ける様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを配備し、定期的な避難訓練や防災設備点検等を実施する等各種災害への迅速な対応に備えている。なお、昨年8月の長時間（約1日）の停電時には法人からの迅速な支援があり、施設生活に特段、大きな混乱は発生しなかった。	防災訓練は3月、11月に事業所として行っている。主に火災と台風の予防をしている。オール電化のため停電対策を準備しているが、発電器がないので法人が検討中である。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「共に笑い、ともに生きる」の理念目標どおり、各利用者の尊厳、プライバシー保持を念頭におき、忘れない様各種会議等で指導している。特に日々の介護支援での言葉使い等には職員がお互いに注意し合う事を定着化させる様に努めている。	部屋入りにはノック、トイレのドアは閉める、入浴時の着替え等に気を付けて、個別書類は事務室に置き、他の目には触れさせない。また接遇研修を繰り返し、やむを得ない異性介助や事業所たよりの写真掲載にはそれぞれ同意書を求めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の施設生活の中から各利用者が自分の考えや意見が言えているか等を見守りや観察にて状況判断する等上手く表現、行動が出来る様な雰囲気作りやタイムリーなサポート、働きかけ支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の施設生活での見守り強化や観察から「今、各利用者が何を、どんな事」を考え、望まれているかを出来る限り把握し、又対応が施設側本位となっていないか等を職員同士が話し合い、各利用者の立場、目線での介護支援を目指している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望、気持ちを優先し、又季節等に応じた服装を選んで頂く様にしている。必要により家族とも相談のうえ、新規購入も適宜、行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各利用者の体調や好み等を考えた食器、盛り付け、見た目等を工夫し、出来る限り楽しんで食事して頂く様に努めている。又、時期に応じた鍋物や粉もん等を提供しており、盛り付け等を積極的に手伝って貰う様にしている。	業者からチルト食品を購入し提供、ご飯と汁もの及び行事食は事業所職員が調理している。また月1回パンの日があり、利用者と一緒にスーパーへ買いに行っている。利用者が配膳や片づけを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者の食事量を記録しており、その日の体調を把握のうえ、栄養バランスを考えた食事を提供する様にしている。特に水分は尿の加減や体調を考慮しながら、基準は午前10時と午後3時頃に補給する様に決めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがいと歯磨きは励行している。、日によっては嫌がられる時があり、説得に苦勞する事もある。なお、定期的な歯科医への診察も受けており、医師指導の元、口腔ケアも行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄支援はデリケートで重要であると認識している。各利用者の排泄状況やパターン等を把握のうえ、本人の意思、気持ちを尊重しながら、その時々に応じたと円滑なトイレ誘導を行っている。又、車椅子の方には安全を最優先している。	排泄チェックして、必要に応じてトイレ誘導したり、見守り介助している、自立者5名、声掛け・タイミング配慮4名、夜のみポータブルトイレが1名いる。便秘者には医師処方 of 服薬をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各利用者の排便記録を作成し、その日の体調に応じた水分補給（朝一番の白湯、牛乳等）と廊下歩行（最低1日/1回、音楽に合わせ）を基準にスムーズな排便サポートに取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各利用者毎の入浴表を基にその日の気分や体調を考慮し、入浴して頂いている。お湯加減を見たり雑談を交え、特に安全面と脱衣場/浴室の温度には注意のうえ、快適な入浴を楽しんで頂く様に努めている。	利用者は週あたり2~3日は入浴できるよう、順序を決めている。職員は基本的に1対1で介助するよう支援している。各種入浴剤を使用し、会話を弾ませながら、楽しい入浴になるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者の生活習慣やその日の体調等を考慮し、各居室の適正な室内温度、臭い、照明等にも注意のうえ、ゆっくりと安心して眠って頂ける様に努めている。昼間帯にもソファ等でゆっくりと休んで頂ける様に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「安心安全、確実な服薬」をモットーに、薬当番（指定責任者）により、一括管理している。又、服薬の際には・お名前・薬の種類・時間等の確認チェックを励行する等誤薬防止の徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者の性格や趣味嗜好を把握し、日常生活の中で本人が出来そうな事と出番を考えながらやって頂く様にエスコートしている。又、季節に応じた行事（豆まき、七夕、クリスマス等）では皆が参加できる様な企画を考えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染5類移行された事に伴い、徐々に外出を計画してはいるが、未だ地域の殆どの方がマスク等を着用されている状況でもあり、積極的な外出支援は出来ていない。なお、天気の良い日等では施設前のベンチで外気浴を兼ねたおしゃべりやお茶、唄を歌ったりの気分転換は実施している。	コロナ禍の制約はあったが、最近ではドライブで花見、紅葉狩り、初もうでに出たり、自治会のどんど焼きに参加した。日光浴を兼ね庭でお茶にしたり、プランターの花を見たり、スーパーへ買い物に出たり、天気次第で散歩に出ている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各利用者毎の預り金は厳重に管理のうえ、本人の希望の生活必需品等を家族にも連絡のうえ、購入しているが、上記外出支援と同様に出先での買物等は実施出来ていない。コロナの状況を見ながら、徐々に買物支援も実施していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居時や運営推進会等でご家族には電話・手紙支援は可能であると説明しているが、利用者は殆ど高齢で認知でもあり、積極的には実施出来ていない。但し、利用者及びご家族の節目（誕生日等）には電話等でのやり取りをして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	法人からの定期的な美化点検や関係者からの指摘やご意見を参考に清掃は勿論、室内の配置替え等は頻繁に行っている。又、ケア会議、申し送り等での職員からの意見等を即実践する様にしている。又、季節に合わせた飾りつけ等は職員自ら企画・実施している。	昼間はほとんどの時間、ホールで過ごしている。食後のテーブル拭きや食器乾燥の手伝い、新聞読んだり、折り紙のくず入れづくりをしたり、散歩で摘んだ花を生けたり、共同でカレンダーや壁飾りを作ったり、利用者は思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆったりと快適なフロア作りを常に職員同士が意識し、意見交換しながら行っている。又、各利用者同士の間人間関係を配慮した座席の配置替え等快適な日常生活の居場所作りに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の調度品等は基本的には家族で決めて頂いているが、入居移行での状況変化で家族と相談のうえ、居心地を考えたレイアウト等を実施している場合がある。その際には安全面を最優先している。	ベッドとエアコンは事業所で設置している。あとはそれぞれの必要性、好み等に応じて寝具、小家具、身の回り品等を持ち込み、過ごしやすい部屋にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境作りは施設全体の重点項目であり、安全且つ快適に生活して頂く事を職員は勿論、施設全体で最優先で取り組んでいる。施設では車イスの方の移動やフロア内での動線等には常に注意を怠らない様になっている。		